



もくじ	
▽大会案内	1
▽国際会議案内	2
▽研究部会レポート	3
▽研究奨励発表会レポート	4
▽今後の学会関連行事	5
▽from Editors	6

【大会案内】
第 62 回大会（2010 年大阪）の
お知らせ ー第 2 報ー

大会長 井上芳光
 （大阪国際大学）

会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、生理人類学会第 62 回大会を下記の通り開催いたします。多くの方々の参加をお待ちいたしております。最新情報は学会ホームページをご覧ください。

記

- 1) 会期：2010 年 5 月 15 日（土），16 日（日）
- 2) 会場：大阪国際大学守口キャンパス 6 号館
〒570-8555 守口市藤田町 6-21-57
京阪電車「大和田」下車徒歩 8 分
 - a) 新大阪から JR（大阪，京橋）もしくは地下鉄（淀屋橋）を乗継ぎ，京阪電車で約 50 分
 - b) 伊丹空港からモノレールと京阪電車で約 50 分
 - c) 関西空港からリムジンバス（守口行き）と京阪電車で約 90 分
 ＊アクセスの詳細は
<http://www.oiu.ac.jp/access/index.html>
 をご覧ください。

- 3) 特別講演：5 月 15 日（土）
九州大学大学院芸術工学研究院
栃原 裕先生
演題「日本人と入浴」
- 4) シンポジウム：
5 月 15 日（土）
「気楽に生理人類学」
司会：下村義弘先生（千葉大学）
5 月 16 日（日）
「ヒトとしての身体機能調節の特徴 ー他の動物との比較からー」
司会：近藤徳彦先生（神戸大学）
- 5) 若手の会：5 月 14 日（金）15:00-17:30
大阪市立大学文化交流センター
（大阪駅前第 2 ビル 6 階）
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600
<http://www.osaka-cu.ac.jp/info/commons/access-umeda.html>
- 6) 懇親会：5 月 15 日（土）午後 6 時より
本学食堂
- 7) 申込等の期限：
 - a) 発表申込：締切りました。
 - b) 抄録提出：4 月 2 日（金）
 - c) 参加申込：4 月 2 日（金）
- 8) 大会参加費および懇親会費（正会員の学生は学生料金とします）
 - a) 4 月 2 日（金）までに振り込む場合
 - ①大会参加費

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

正会員 6000 円, 非会員 8000 円, 学生 3000 円

②懇親会費

正会員 6000 円, 非会員 7000 円, 学生 3000 円

b) 4月3日(土)以後に振り込む場合

①大会参加費

正会員 7000 円, 非会員 9000 円, 学生 4000 円

②懇親会費

正会員 7000 円, 非会員 8000 円, 学生 4000 円

9) 大会事務局:

〒570-8555 守口市藤田町 6-21-57

大阪国際大学人間科学部 井上研究室内

日本生理人類学会第 62 回大会事務局

e-mail : jsa62@oiu.jp

電話 : 06-6902-0791 内線 2363

【国際会議案内】

第 10 回国際生理人類学会議のご案内 — 第 2 報 —

国際担当 原田 一 (東北工業大学)
恒次祐子 (森林総合研究所)

第 10 回国際生理人類学会議は、下記の通り、
Bittles 先生 (Centre for Human Genetics, Edith
Cowan University, Perth) のお世話により開催さ
れますので、ご案内申し上げます。

会議長 : Prof Alan Bittles

会 期 : 2010 年 9 月 9 (木) ~12 日 (日)

場 所 : Esplanade Hotel Fremantle,

フリーマントル, オーストラリア

メインテーマ : Peoples and Places

スケジュールの概要は下記の通りですが、プロ
グラムの詳細については分かり次第お知らせいた
します。

9月9日(木):登録および歓迎会

9月10日(金):セッション, 若手の会
ポスター発表

9月11日(土):セッション,

IAPA General Assembly,

プールサイド・バーベキュー

9月12日(日):セッション

メインテーマ 「Peoples and Places」

サブテーマ

- 1) Physiological variation and adaptation
- 2) Genetic variation and adaptation
- 3) Chronobiological variation including secular trend
- 4) Bio-cultural adaptation including technological adaptability

登録

早期参加登録期間

2010年4月12日(月)~7月31日(土)

アブストラクト

締め切り:6月1日(火)

受理通知:6月15日(火)

アブストラクトフォーマット

フォント:Times Roman, 12ポイント

マージン:左右とも3.14cm

シングルスペース, 左寄せ

最大250ワード

タイトル, 発表者名, 所属, E-mail アドレス,
口頭発表かポスター発表のいずれかを明記の上,
下記へお送りください。

Prof. Alan Bittles,

abittles@ccq.murdoch.edu.au

詳細は学会 HP に掲載予定の国際会議案内を参
照してください。

登録費

4月12日(月)~7月31日(土)

発表者 55,000円

同伴者 26,000円

学生 26,000円

8月1日(日)以降

発表者 A\$750

同伴者 A\$350

学生 A\$350

1日参加の場合

発表者 A\$275

同伴者 A\$125

学生 A\$125 (A\$: オーストラリアドル)

なお, 学生参加の場合, 指導教員の証明書を

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

送付する必要があります。

7月31日(土)までの登録費支払いは、円建てにて、国内での振込口座を開設する予定です。

ホテルの予約

会場となる Esplanade Hotel Fremantle での宿泊は一部屋当たり 218A\$ (国際会議料金) の予定です。3名まで宿泊可能。割引料金での予約にはコードが必要となりますが、日本生理人類学会 HP, または、学会会員メーリングリストにて近日中にお知らせいたします。

会場周辺のホテル情報についても、分かり次第お知らせいたします。



Esplanade Hotel Fremantle
<http://www.esplanadehotelfremantle.com.au/>

フリーマントルはパース市の南西約 20km に位置する港町で、第二次世界大戦時には、連合軍の潜水艦基地として使用されていました。歴史のある建物が並ぶ町並みが有名で、週末には 1897 年から続く「フリーマントル・マーケット」が開催され、多くの観光客が訪れています。特に 9 月は初春なので、比較的過ごしやすい気候です。

フリーマントルの情報はこちらから：
<http://www.fremantle.wa.gov.au/>

アクセス：

成田から直行便で約 10 時間。日本とパース間

はカンタス航空が直行便を週に 3 便運航。

シンガポール航空 (シンガポール経由) がシンガポール経由パース行きの便を毎日運行しています。その他、マレーシア航空 (クアラルンプール経由)、タイ航空 (バンコック経由)、キャセイパシフィック航空 (香港経由) など利用できます。

カンタス航空の場合 (3 月現在発表されている時間) ですので、ご参考まで)

東京→パース (月・水・土曜日運航)

成田 20:40 発 パース 6:05 着 (翌日)

パース→東京 (火・金・日曜日運航)

パース 22:55 発 成田 9:55 着 (翌日)

問合せ先：

東北工業大学 原田 一

Tel: 022-304-5575

E-mail: h-harada@tohtech.ac.jp

若手の会問合せ先：

森林総合研究所 恒次祐子

Tel: 029-829-8310

E-mail: yukot@ffpri.affrc.go.jp

【研究部会レポート】

適応協関研究部会

古賀俊策

(神戸芸術工科大学大学院)

2010 年 1 月 9 日 (土) に芝浦工業大学・豊洲キャンパスで開催しました講演会の報告を致します。講師として、Daniel E. Lieberman 先生 (ハーバード大学・進化生物学科教授) をお招きして「ヒトの持久運動能力の進化」について講演して頂きました。講演の内容はヒトの進化系統図に始まり、直立歩行、狩猟採集の生活、気候変動、農耕・工業・都市化、運動不足、生活習慣病、テクノアダプタビリティなどについて豊富な研究事例を紹介されました。特に、長時間の活動を可能にした持続的な運動能力の進化とそのメカニズムについて詳細な説明がなされました。Lieberman 教授は、ヒトの全身持久性運動能力の進化が広い地域における栄養価の高い食物の獲得を可能にし、その結果、

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

大きな脳が発達したという説を提唱しています。「逃避」や「狩猟」といった場面での移動速度を高める必要性から、長時間にわたって力を発揮する筋肉エネルギー代謝の持続、熱の産生と放熱のバランス、および細胞・個体レベルにおける血液の循環維持能力が発達したと考えられます。

この講演をとおして生理人類学・人間生物学と運動・呼吸・応用生理学のリンクを見出された方も多いと思います。

ヒトは進化の過程で、自然環境への合理的な適応能力を獲得してきました。人工環境への適応能力を考察するうえで、ヒトが本来有する適応能力の生理学的メカニズムを詳細に解明することが必要です。本研究部会では、ヒトの適応能力を全身的協関の観点から捉え、生活文化との相互関連を探求致します。今後の部会活動について、会員の皆様方の積極的なご提案を期待します。

最後に、年始早々にもかかわらず、講演会会場と映写プロジェクターの設定をして頂いた、芝浦工業大学の工藤奨先生と濱崎啓太先生に厚くお礼を申し上げます。



講演中の Daniel E. Lieberman 先生

【研究奨励発表会レポート】

第3回研究奨励発表会報告

工藤 奨
(芝浦工業大学)

2009年12月12日(土)に芝浦工業大学豊洲キャンパス(東京)で開催されました。今回は26件の口頭発表があり、年々と発表件数が増えてき

ており、嬉しいかぎりです。発表には未完成の部分も多々あったかと思われませんが、研究奨励発表会の趣旨をご理解いただき、日本生理人類学会の将来を支える学生諸君に発表機会を与えてくださった学会員の先生方には深く感謝したいと思います。学生にとって、早い段階で自分の研究成果を見直すことや他大の学生の発表を聞くことは今後の研究成果をあげていくうえで非常にいい機会だと思います。日本生理人類学会は研究奨励発表会を継続していきますので、学会員の先生方のご理解とご協力を今後もよろしくお願いいたします。

今年度からは、九州大学の樋口先生のご尽力のもと九州地区でも開催することとなりました。全国の学生が発表できる機会を今後も増やしていく方向で検討していますので、積極的なご参加をお待ちしております。

研究奨励発表会では、優秀発表賞を授与しております。今回は以下の3名の方が受賞し、受賞の喜びの声をもらいました。本当におめでとうございます。今後も日本生理人類学会での活躍を期待しています。

日本生理人類学会第3回研究奨励発表会優秀発表賞(3名)

唾液バイオマーカーを用いた長期的ストレス評価の検討 - 看護介護就労者を対象とした -

鈴木健太(長岡技術科学大学)

この度は日本生理人類学会第3回研究奨励発表会において優秀賞という大変すばらしい賞を頂き、研究メンバー共々光栄に思っております。そして本研究において私を導いてくださった野村収作特任准教授には、この場をお借りして御礼申し上げます。私どものような学生は、日々情熱を糧に研究を推進しております。しかしながら、本領域は、これまでに多くの研究者の方々が解明されようとしてきた研究領域です。そのため私たちが研究を提案していくにはまだまだ不安な気持ちでいっぱいでした。そのようななかで本学会においての入賞は、今までの努力が間違えではなかったのだと、とても励みになりました。

これからも研究の一つ一つを紡がれていくことで、未だ知られてないメカニズムが明らかになっていくと思われま。そのようななかで私どもの

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

研究が、解明の材料のひとつとなれば幸いと思います。

シフトワークが食事摂取に及ぼす影響

長島俊輔（京都大学）

この度はこのような素晴らしい賞に選出していただきありがとうございます。学部の卒業論文として初めて取り組んだ研究がこのような結果となり、大変うれしく思っております。

今回の研究では、シフトワーカーの食事と体内時計というまだまだはっきりした事が少ない分野で、また私が目指します看護師と密接に関係があるテーマを選びました。調査では現場の看護師さんをはじめとする多くの方にご意見を頂き、私自身大変勉強になった研究でありました。第3回研究奨励発表会での先生方や発表された学生の皆様から頂きました、発表内容に関するコメントやアドバイ스는大変貴重なご意見であり、このような学部学生にも発表できる機会を下さったことを深く感謝申し上げます。大学卒業後、看護師として病院で働くこととなりましたが、シフトワークを自分で実際に経験してみた上で更なる将来の研究につなげていけたらと思っております。

まだまだ研究者としてのスタートラインを垣間見ただけにすぎないのかもしれませんが、今回頂きました賞を励みにして、これからの研究に精進して参りたいと思います。本当にありがとうございます。

最後にこの場をお借りして、発表会中大変お世話になりました工藤奨先生、ご指導いただきました若村智子先生、ゼミ関係者の皆さん、調査にご協力いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。

fMRI を用いた化粧の社会性に関する脳科学的研究

磯部寛子（首都大学東京）

このたびは、日本生理人類学会第3回研究奨励発表会優秀発表賞を頂きまして、心より感謝申し上げます。今回の受賞は多くの方々のお陰であると実感しています。ご多忙にも関わらず温かくご指導頂きました菊池吉晃教授、則内まどか先生、実験等に協力して下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

化粧は、見た目を変えるだけでなく、気分や言

動にも変化を及ぼすものであり、多くの女性にとって大きな意味を有すると思われま。本研究では、女性の化粧についてfMRIを用い、特に社会性の観点から検討することを目的とし、被験者の素顔・化粧顔それぞれを他人が見て評価していると感じられる刺激動画を用いた実験を行いました。結果として、化粧顔の場合は、他者からのより良い評価が期待できpositive emotionに關与する脳活動が認められ、素顔の場合は、警戒心・拒否感によるアラームシステムの作動や、動揺する自己をコントロールしようとする働きが認められたことから、社会性における化粧の意味が脳機能の側面からも示唆されました。

化粧の影響として、医療・福祉の領域での化粧療法等も注目されていますが、今後も人々の笑顔や幸せに繋がるような研究に励んで参りたいと考えています。

【今後の学会関連行事】

オフィス研究部会 2010 年度第 1 回講演会

日時：2010 年 4 月 2 日（金）13:30～16:30

会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス 5 号館 2 階 524 会議室（予定）

<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/index.html>

講師・演題（敬称略）：

三浦邦弘（大建設計）・「オフィス環境設計の実際と将来展望」

池田耕一（日本大学）・「オフィスの空気環境について」

連絡先：講演会へのご参加を希望される方は、下記まで、電子メールもしくは FAX にてご一報下さい。

安衛研 榎本宛 (enomoto@h.jniosh.go.jp)
FAX:044-865-6124)

送信タイトル「オフィス研究部会講演会申込み」
お名前・ご所属・ご連絡先（電話番号、メールアドレス等）をご記入下さい

日本生理人類学会第 62 回大会

会期：2010 年 5 月 15 日（土）・16 日（日）

場所：大阪国際大学

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

(大阪府守口市藤田町 6-21-57)
連絡先：大会事務局
jspa62@oiu.jp

1 級……………(株)国際文献印刷社・
江戸川橋会議室を予定
(所在地：東京都新宿区山吹町 358-5)
*詳細は学会ホームページ「資格認定」を参照

姿勢研究部会 第3回研究会

詳細は、姿勢研究部会ホームページに記載されています。

(<http://kanapos.w3.kanazawa-u.ac.jp/>)
開催日時：
平成 22 年 6 月 26 日 (土) 10 時～17 時 (予定)
開催場所：
金沢大学医学部記念館 (〒920-8640 金沢市宝町 13-1)
連絡先：
姿勢研究部会
kanapos@med.m.kanazawa-u.ac.jp

第 10 回国際生理人類学会議

会議長：Alan Bittles 教授
会期：2010 年 9 月 9 日 (木) ～ 12 日 (日)
(9 月 9 日 (木) は登録および歓迎会)
場所：Esplanade Hotel Fremantle
(フリーマントル, オーストラリア)
連絡先：原田一
h-harada@tohtech.ac.jp

日本生理人類学会第 63 回大会

会期：2010 年 10 月 30 日 (土)・31 日 (日)
場所：千葉大学けやき会館
(千葉市稲毛区弥生町)

2010 年度 生理人類士資格認定試験

受験申込期間：
2010 年 10 月 1 日 (金) ～ 10 月 12 日 (火)
受験申込先：
各指定校在学の受験希望者・各指定校責任者
それ以外の受験希望者……………学会事務局
試験実施日時：
準 1 級・2 級……………2010 年 11 月 27 日 (土)
13 : 00～14 : 00
1 級……………2010 年 11 月 28 日 (日)
13 : 00 開始予定
試験実施会場：
準 1 級・2 級……………各指定校試験会場

from Editors

次号 (5 月末発行) の原稿締切は 4 月 30 日 (金)

▽今回の PANews には、たまたま 4 月 2 日の開催案内、あるいはその日を締切とする案内記事が複数件含まれております。その日が、皆様のお手元に今号が届く直前か届いた直後という微妙なタイミングになったかと思えます。前々回のこの編集後記でも書かせていただきましたように、これが PANews のような発行形態の泣き所でもあります。しかし、少しでも賞味期限切れの情報を出さないよう、去年から「今後の学会関連行事」のコーナーを設け、明らかになった情報は完全にならなくても出来るだけ事前に掲載するよう心がけております。引き続き、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

会報担当理事：岡田 明 (大阪市立大学大学院)
福島修一郎 (大阪大学大学院)

PANews 編集事務局：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学大学院生活科学研究科
居住環境学講座 岡田明
e-mail akira.pegasus@nifty.com
〒560-8531 豊中市待兼山町 1-3
大阪大学大学院基礎工学研究科
生体計測学講座 福島修一郎
e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp